

表1 進路指導計画の主な改善点

	内 容	計 画 お よ び 変 更 の 概 要	新 設 お よ び 変 更 の 理 由、背 景
新 た に 加 え た も の	家庭教育講座	61年度年間6回、62年度年間3回、1回につき60～120分。各学年の保護者及び同窓会員を対象に、外部講師による講演を行う。講演終了後懇談会。内容によっては生徒も参加する。	進路希望を確立し、その実現に向けて努力させるためには家庭における保護者の指導や助言が不可欠である。そのためには、現在の高校教育を取りまく状況を、保護者自身が十分に認識する必要がある。
	先輩を囲む会	進学した先輩・就職した先輩を招き経験談を聞かせる。対象生徒は2・3年生で、それぞれの進路に分かれて話を聞く。	進路希望実現に向けて取り組む時期が遅く、しかも学習時間の少ない生徒が多く見られる。このような生徒に対して、先輩の学習法や進路達成の喜びを聞かせることは、刺激や励みになり、学習を深めるきっかけになる。
	進路相談	従来、個人的に行われていた進路相談を、体制として確立したもの。生徒が申込書（進路希望や学習状況などを記す欄がある）をHRTを経由して進路指導部に提出し、進路指導部員が相談に応ずる。	生徒の中には、進路実現のための学習方法や進路の選択などについて悩んでいる者が、かなり見られる。こうした生徒に対して、HRTが中心となって指導しているが、より指導を徹底するために、進路指導部員がHRTと連携をとりながら相談にあたる必要が生じた。
	公務員特別指導	公務員希望者を対象に、外部講師も招き、7月、9月に合計3週間の特別指導を実施する。	最近、公務員希望者は増加の傾向にあるが、目的を達成することは年々困難となっている。
	職場見学	3年生の就職希望者が対象である。夏休みを利用して、地元企業数社を見学し、会社の人と話し合いをする。	会社の実態や仕事の内容をよく検討しないで安易に職場や仕事を決め、就職後、数か月で転職というケースも生じる。また働くことの厳しさも自覚しないまま就職していく生徒もいる。
	早朝指導	全学年を対象に6月から社会科教室等において、英数の質問を受け指導する。時間は7:30～8:15まで	自学自習を促進させるために、社会科教室等を開放し、英語、数学の教師が交代で質問を受け、自己教育力の援助をする。
	春季合宿学習	1,2年生希望者を対象に3月下旬に那須甲子少年自然の家で、1日10時間の自学自習をし、英・数学の教師が同行し指導する。	大学入試に備え、家庭学習の不足を補うべく、生徒は自学自習し、英語、数学の教師が質問を受け、自己教育力を援助する。
学 年 の 枠 を 拡 大 し た も の	進路講演会	進路に関する講演会は、従来3年生だけをその対象としていたが、1・2年生もその対象とした。	進路希望を実現するために具体的な努力をしている2年生は非常に少ない。これは、進路希望そのものに切実さを欠くことや、進路希望実現の見通しに甘さがあることなどによるものと思われる。こうしたことを払拭し、厳しく進路を直視させ、実現に向けてスタートさせるきっかけが必要である。
	校内模擬試験	3年生を対象に年間4回行われている校内模試のうち、第4回目に、2年生の希望者も参加できるようにした。	
	公務員模擬試験 就職模擬試験	従来3年生だけが実施していた公務員、就職の外部模試を2年の後半から受験するようにした。（各2回）	
内 容 を 変 更 し た も の	進路別ガイダンス (2・3年対象)	生徒だけを対象にした進路別ガイダンスに、希望する保護者も参加できるようにした。	大学・専門学校・職場の状況や学習方法等について、保護者が理解することは、家庭教育の見地からも、親子の意思疎通をはかる見地からも意味のあることである。
	三者懇談 (2年対象)	従来7月に実施していたがそれに加えて12月にも実施する。	遅くとも12月の段階では進路希望実現に向けてスタートするように指導する。
	春季進学講習会	従来3月下旬に実施していたが、大学教授から予備校講師にきりかえた。	大学教授の授業が難しいので、受験対策の専門家予備校講師による英・数教科学習法等で受験対策の糸口とする。